

FAPA 2024 参加報告書

丸田勇樹（株式会社フロンティア）

概要

2024年10月29日から11月2日に韓国・ソウルで開催された第30回アジア薬剤師会連合学術大会（FAPA 2024）に参加しました。本大会は、アジア薬学界を代表する学術イベントであり、薬学分野における最先端の研究成果と技術革新を共有し、次世代への発展を共に考える貴重な機会でした。

発表内容

・発表テーマ

「保険薬局薬剤師の継続的フォローアップが外来がん治療患者の服薬アドヒアランスと健康状態に与える効果」

・研究目的

本研究は、保険薬局薬剤師が行う継続的なフォローアップ（FU）が、外来がん治療患者の服薬アドヒアランス、健康状態、有害事象の重症化回避にどのような影響を与えるかを検討するものでした。患者の服薬指導やフォローアップを強化することで、がん治療の安全性と効果を高めることを目的としました。

・研究方法

- 対象患者：外来がん治療を受ける132名
- 方法：「FUあり」グループと「FUなし」グループの比較
- 指標：服薬遵守状況、質問行動、全身状態、有害事象の重症化
- 分析：ロジスティック回帰分析を用いてオッズ比を算出
- 使用ガイドライン：日本薬剤師会「薬剤使用期間中の患者フォローアップの手引き」

・研究結果と考察

- FUの効果

FUにより患者の服薬アドヒアランスが改善され、医師や病院薬剤師との連携を通じて有害事象の重症化が抑制されました。患者個別のニーズに対応した指導が効果的であったと考えられます。

- 全身状態の変化

がん治療の特性上、短期間で全身状態の大幅な改善は見られませんでした。患者の質問行動を促し、治療への理解を深めることができました。

主な活動内容

・研究発表

発表後、多くの参加者から質問や意見をいただき、研究の有用性を高く評価していただき

ました。

特に、薬薬連携の重要性や日本の保険薬剤師の実践が関心を集め、他国の研究者との対話が広がりました。特にがん治療において、臨床（病院）薬剤師の介入が主流である場合が多い一方で、日本の保険薬剤師は地域に根ざし、通院患者の長期的なフォローアップを担う点がユニークであると評価されました。また、心理支援を専門とする薬剤師の重要性が指摘され、さらなる専門性の深化が求められる分野であるとの認識が共有されました。オーストラリアや韓国の参加者から、フォローアップが長期的な医療コスト削減に寄与している事例が共有され、日本の保険薬局での実践が医療全体の効率化に貢献できるとの見解が示されました。質疑応答を通じて、国際的な視点からのフィードバックを得ることができました。質疑応答を通じて、以下の今後の課題と展望が明確になりました。

- コストと効率性の定量化：継続的フォローアップの経済的なインパクトを具体的に測定し、医療経済の分野につなげる。
- 多職種連携の強化：医師、看護師、病院薬剤師との連携をさらに深めるための具体的なプロセスを構築する。
- 国際比較研究：他国の患者フォローアップ事例と比較し、エビデンスを基にしたベストプラクティスを構築する。

・ポスターセッションとネットワーキング

ポスターセッションでは、若手研究者を中心に、多彩で革新的な研究が発表されました。私自身、金ナノ粒子の臨床応用や創薬技術に関する研究者や他国の地域薬局の薬剤師との意見交換を通じて、今後の研究の可能性を模索することができました。

・薬学教育セッション

教育部門では、学生の専門性向上を目的としたケースベース学習やデジタルツールを用いた教育手法の成果が議論され、薬学を学ぶ者として多くの刺激を受けました。

・最新技術の動向

AI を活用した薬物探索、バイオ医薬品の進化、個別化医療の発展など、多岐にわたるテーマのセッションに参加しました。特に、赤外線スペクトル分析と AI を組み合わせた創薬技術が、研究と実用化の新たな方向性を示していました。

印象的だった発表

・AI 技術の応用

AI を活用して薬物特性を解析し、創薬プロセスを効率化する研究が注目されました。これらの技術革新は、薬剤師が直面する臨床課題を解決する新しい可能性を示しています。

・バイオ医薬品と再生医療

腎臓オルガノイドモデルを用いた腎毒性スクリーニングや、細胞治療の実用化に向けたステムセル技術は、基礎研究と臨床応用の橋渡しとして興味深いものでした。

・薬局の進化

タイの慢性腎疾患スクリーニングプロジェクトや、RPA を活用した薬局業務効率化の取り組みなど、地域医療への貢献を示す実例が紹介されました。

今後の展望

- ・ 研究の深化と発展

今回発表した研究テーマをさらに掘り下げ、地域医療に貢献します。

- ・ 薬学教育の向上

海外で得た教育プログラムや手法を日本に取り入れ、薬剤師の実践力向上を目指します。

- ・ 国際的視点の強化

本大会で築いたネットワークを活用し、国際的な視点を持ち、薬学研究やプロジェクトを推進します。

結び

FAPA 2024 は、私にとって薬剤師および研究者としての成長を促す大変貴重な経験でした。この機会を提供していただいた貴会の支援に心より感謝申し上げますとともに、支えてくださったすべての方々に改めて感謝申し上げます。今後も、薬剤師の職能の価値を明確にできるように、微力ではございますが、薬学分野における革新と発展のために努めてまいります。



国立国際医療研究センター島貫先生のフォーラム



プレコンgressセレモニー



私のポスター発表の様子